

新しいミュージカル映画

『ダンサー・イン・ザ・ダーク』について

大石和久

「ミュージカルは不思議だ。なぜ突然、歌ったり、踊りだしたりする？ 僕はしないよ。急に踊りだすなんてこと」と聞くジェフ（ピーター・ストーマ）に対して、ミュージカルが大好きなセルマ（ビョーク）はうつむきながらこう答えるだけ。「そうね、しないわ」。デンマーク映画『ダンサー・イン・ザ・ダーク』（監督ラース・フォン・トリアー／2000年）のワンシーンだ。ミュージカル映画では「人が夢を見るように、ダンサーは踊りだす」、とフランスの哲学者ジル・ドゥルーズが言うのは正しい。実は、ミュージカル映画の街は夢のなかにある。それがいくら現実的であったとしても、である。そうでなければ、どうして人が「突然」踊りだすことなんてできるだろう。ジーン・ケリーが踊りだすパリの街は、映画のはじまりから夢のなかにあったのである。ミュージカルの登場人物たちはいつまでたっても覚めない夢を見ているのだ。

このミュージカル映画のなかでも、突然、工場で働いていた人々がリズムミカルな機械音にあわせて歌い踊りだす。セルマは歌い踊り（「機械がいろんなリズムを刻みはじめる。すると夢の世界になって音楽が始まるの……」）、踊るのをためらっていたキャシー（カトリーヌ・ドヌーヴ）を夢の世界に誘う。速く打ち鳴らされるリズムミカルな工

場の機械音、レールの上をゆるやかに走る列車の音の緩慢なりフレーン、刑務所のなかでさえも床を踏み鳴らす乾いた靴の音に、セルマの身体は共鳴し、彼女は夢のなかを生きる。世界に満ちた無機質な音響に彼女の身体は貫かれ、彼女によってそれは喜びに満ちた音楽になる。

でも、セルマの夢は覚める。目がほとんど見えないセルマは、機械で手にけがをしてしまい、現実へと引き戻される。通常のミュージカル映画とは異なるまずひとつの点がここにある。ラース・フォン・トリアーは、夢（セルマの夢想）と現実（過酷な労働）とを明確に区別し、セルマにこの二



セルマ（ビョーク）山下ちはぎ画

- p.1-2. 新しいミュージカル映画 ■ p.3. アメリカ図書館雑感 ■ p.4. 刑法学あれこれ④
■ p.5. 韓国を知るための本④ ■ p.6. 日本小説史展（1階自由閲覧室）
■ p.7. 書評 新入生の皆さんへ!! 図書館の動静 ■ p.8. 新しい時代への提言

つの領域を往復させる。すべてのシーンが夢ではないのだ。映像の質が夢と現実に対応していることから、これは明らかである。ミュージカルが展開する極めて精巧に構成された夢の部分と、生々しく荒々しいドキュメンタリー・タッチの映像が表現する現実の部分から、この映画はできている。

目が見えないがゆえに、セルマは夢見がちになり、同時に彼女の労働は、ひいては彼女の生はその過酷さを増す。セルマは自分の目の病気は遺伝性であり、自分の息子もいずれ目が見えなくなることを知っていた。彼女は息子の手術代のために目の病をおして働くが、目が見えないことに付け込まれ、貯めていたお金を家主に盗まれてしまう。家主が犯人であると気づいたセルマは、家主にお金を返すように嘆願するが、もみあいとなり、家主（彼は警官でもあった）の持っていた銃が暴発し、彼は死ぬ。そして、セルマは死刑の判決を受ける。（しかしながら、ラース・フォン・トリアー自身が言う通り、目が見えないというこの設定は、この映画の「メロドラマ」的な側面であって、あまり強調しすぎてはならないだろう。重要なのは、この「メロドラマ」が要求する過酷な生を、セルマのミュージカルが肯定するということである。後述。）

映画のラスト、セルマが死刑台にのぼった、そのシーンで奇蹟が起きる。現実と夢がひとつに重なりあい、現実のなかで彼女は歌いはじめるのだ。当初、彼女は恐怖のあまり叫び続ける、が、息子の手術が成功したことを知ると落ち着きを取り戻し、「心音の律動」（阿部和重）に誘われ、死刑台の上で命の限り歌い続ける。このラストシーンから分かるのは、この映画では、実は夢と現実の往復そのものが重要ではなかったということだ。『ダンサー・イン・ザ・ダーク』は、夢と現実がある

臨界点において融合するに至るまでの過程を描いたミュージカル映画だったのである。

では、なぜ夢と現実がラストシーンにおいてひとつに重なりあうのか。夢のなかであれ、歌い踊ることは、彼女にとってこの世に生きていることの、過酷な運命＝偶然の肯定でずっとあり続けてきたからだ（運命的に＝偶然に目の病はセルマに、彼女の息子に遺伝し、運命的に＝偶然に拳銃は暴発する……）。「セルマのミュージカルは単純な現実逃避ではない」とラース・フォン・トリアーは言う。セルマは、世界に鳴り響く音、身体のうちこにこだまする音に貫かれ自分の身体の輪郭を失いながら、世界と共鳴し、そうやってこの世界に生きていることを——それがどんなに過酷な生であれ——喜びとともに引き受けてきた。でなければ、人はセルマ＝ビョークのように歌い、踊れるだろうか。死刑台のミュージカルも、それは断末魔の悲鳴ではなく（それはすでに治まっていた）、彼女が生きたひとつの生への肯定ではなかったか。だから、死刑台でセルマは歌うのだ。これは「最後から二番目の歌」、と。これは最後の歌ではない。一度きりではなく、決して最後には到達することのない、何度でも繰り返される歌である。セルマにとって彼女の生は、一度きりで終わりにすべき、否定的な生ではなかった。彼女の生きたことはこの歌とともに何度でも肯定され、喜びをもって享受されるのである。

ラース・フォン・トリアーは、ミュージカル映画への深い理解に基づき新しいミュージカル映画を創り上げた。彼は夢と現実を反転させ、最終的にはひとつに融合させることで、夢を単なる現実からの逃避ではなく、現実への肯定にまで高めたのである。

（おおいし かずひさ／人文学部講師）

このエッセイに関する図書館の本紹介

ビョークについて知りたい人には、

『ユリイカ』（2002年1月号）特集ビョークの世界

がお勧め。『ダンサー・イン・ザ・ダーク』論も含まれている。また、ミュージカルを夢のイマージュ（映像）と見るドゥルーズの映画論（『シネマ1』、『シネマ2』）は残念ながら、まだ翻訳がない。

宇野邦一『ドゥルーズ流動の哲学』135.5/UNO

はドゥルーズ哲学入門であり、ドゥルーズの映画論も紹介されている。また、『ダンサー・イン・ザ・ダーク』についての言及もある。



アメリカ図書館雑感

小林 真之

私が12年前(1990年)在外研修で訪れたアメリカは不況のどん底に喘いでいた時で、高い失業率を反映して、多くのホームレスが市内で見られた。研修先(ペンシルヴァニア大学)が所在するフィラデルフィアは独立宣言が発せられた古都として知られ、現在も人口580万人を擁する全米第5位の都市であるが、同時にニューヨーク、ロスアンゼルスと並んでワースト5にランクされる犯罪都市でもあった。

ペン大はB.フランクリンにより創立されたアイビーリーグの一つで、1990年は250周年記念の年にあたり、レーガン前大統領の講演会など種々の記念行事が催されていた。ペン大は都市型の大学で、アメリカ他大学のようにキャンパスは広くないが(もちろん本大学とは比較にならないが)、フルタイムの学生数は1万7700名(一般学生9700名、大学院生8000名)、教員数は4000名ほどであった。一般学生にしめる外国留学生の比率は10%程度であるが、そのうちアジア系が38%を占める最大グループであり、インド、中国、韓国、日本の順位であった。

ペン大には15の図書館があり、書物は490万冊、マイクロフィルムなど340万件を収蔵し、キャンパスのほぼ真ん中にあるヴァンペルト(Van Pelt)図書館が全学の中心的な役割を果たしていた。私は米金融史を研究対象としている関係で、州銀行監督官から発行された資料などを利用するため、この図書館を大いに活用することになった。図書館利用のうえで何よりも助かったのは一部の稀観本を除いて、ほとんどの書物・雑誌が開架式となっており、現物を手に出来ることであった。雑誌・統計類は館外持出し禁止であったが、論文等の複写のためにコピー機が諸処に置かれてお

り、私は10台以上のコピー機が集中的に置かれている場所を良く利用していた。またレファレンス・サービスが充実しており、かなり専門的な知識を有する図書館員から資料上のアドバイスを受けることが出来た。時折大学新聞に図書館員の求人欄が掲載されていたが、求人条件はヒストリアン、書誌専門家(アラビア語)etcかなり特殊な専門性を要求するものであった。

図書館の利用時間も当たり前といえばそれまでであるが、利用者の立場を考えてなかなか合理的に決められていると感心したものである。大学の講義は週5日制であるので、開館時間は平日で8時30分~午前零時であるが、学生が息抜きをする金~土曜日は午後9時まで、翌週の予習がある日曜日は午前10時~午前零時となっていた。その他にも24時間開館しているスペースがあり、夕食が終わった後、午後7~8時頃になれば、続々と図書館の座席が埋まっていく様は日本ではなかなか見られない「風景」であった。大学の授業は学生による指定文献の予習を前提として進められるため(reading assignment)、図書館は厳しい単位取得条件をクリアするための必須の知的インフラとなっていた(4年間での卒業率は79%)。またペン大(私立大学)の授業料は一般学生で2万5000ドル(325万円)、大学院生で3万2000ドルとかなり高く、多くの学生が学費・生活費を奨学金に大きく依存せざるをえないとすれば、是が非でも良い成績を残すことが必要となるのである。

その他館内で毎月1回室内楽の夕べが開催されていたこと、大学図書館が広く一般市民の利用にも開かれていたこと、など図書館・大学の在り方について考えさせられた滞米経験であった。

(こばやし まさゆき/図書館長・経済学部教授)

権威的刑法から討議的刑法へ ②

吉 田 敏 雄

You think, I am a dreamer.

But I think, someday you will join us. (John Lennon)

「恢復的（修復的）司法」の源流は多岐にわたるが、その主なものとして古典古代の法制史の知見（それほど残酷な刑罰が執行されたわけではないこと）、キリスト教「聖書」の新しい解釈（同害報復を命令していないこと）、心理学の発展（公平心理学、社会的行動心理学、人道主義的心理学）、社会哲学の知見（生活世界の植民地化からの脱出）、犯罪者及び犯罪被害者救済運動の進展等を挙げることができる。これらの上に「恢復的司法」の思想が発展したのである。様々な職種の人がその実践を担った。北アメリカ（カナダ、米国）では、キリスト教メソナイト派の保護観察官であり、後に社会福祉学者が加わった。欧州は、スイスでは、ザクセリート刑務所長が殺人犯をも収容する開放処遇施設で試みており、ドイツ、オーストリアでは、少数の実務家、刑法学者が積極的に実験を行い、立法にこぎ着けているし、ベルギーでは、ルーヴァンのキリスト教大学刑事法学者が中心となっている。下から盛り上がった運動ということもあって、「緑の司法」又は「草の根司法」と呼ばれることもある。「恢復的司法」の実践形態は様々であるが、主として「家族協議会」、「被害者—犯罪者調停」がある。前者は、ニュージーランドで少年非行者を対象として発達したもので、イギリス流の懲罰的「刑事司法（正義）」に代わり、土着民のマオリ流非行処理方法を取り入れたものである。非行少年とその拡大家族、被害者とその拡大家族のあわせて15名ほどが一堂に会して、社会福祉士が調整役を務める。自主的解決が成立すると、基本的には処罰を要しない。この方法は、現在、オーストラリア、米国、イギリスにも広まってい

る。後者は、北米とスイスでほぼ同時期に始まった。それは、犯罪者（非行者）とその被害者が仲介者を通して直接、又は間接的に話し合いの機会を持ち、過去の事件の克服、将来の前向きの生活を目指す。これは、現在、西欧のほぼ全域で実践されている。「恢復的司法」の視点からは、「社会奉仕労働」の新たな位置づけも可能となる。

伝統的刑法学は、犯罪者、被害者、社会そして国のあるべき関係を考慮することなく、専ら犯罪者と国の関係に関心を払ったのである。その典型的表現が国の「刑罰請求権」である。しかし大事なことは、被害者の保護・救済であり、犯罪者の社会復帰であり、そしてこれらに関する社会の連帯である。新しい刑法学はその理論的枠組みを提供しなければならない。そうでなければ刑法学は実務化の単なる「道具」にすぎなくなる。

結論を急ごう。刑法の任務は「法的平和の恢復」にある。刑法は、専ら刑罰に頼る「消極的行為刑法」から、犯罪者—被害者—社会関係の積極的修復を目指す「積極的行為刑法」にその重点を移さなければならない。したがって刑事訴訟法も刑法の任務の実現に寄与すべく改正されなければならない。このようにして初めて、刑法、刑訴法、少年法、行刑法、更正・保護法の統一的把握が可能となる。

（よしだ としお／法学部教授）

【参考文献】

現代のエスプリ第336号（平成7年7月）。

韓国を知るための本

4 韓日関係

水野邦彦

よきにつけあしきにつけ韓国と日本は深い関係にある。日帝による侵掠の歴史はくりかえすまでもないが、解放後の韓日関係もふくめて、私たち日本人が自覚しなければならない事柄は多い。

- ①シンポジウム「日韓問題と日本の知識人」『現代の眼』1966年2月号
- ②金嬉老『われ生きたり』新潮社、1999年〔開架：289.2/KIN〕
- ③尹健次『異質との共存』岩波書店、1987年〔開架：316.81/IN〕
- ④高崎宗司『「妄言」の原形』木犀社（増補新版）1996年〔開架：319.1021/TAK〕
- ⑤李元淳『韓国から見た日本の歴史教育』青木書店、1994年〔開架：375.32/R32〕
- ⑥歴史学研究会編『日朝関係史を考える』青木書店、1989年〔開架：210.18/N71〕
- ⑦『ポンソンファ（鳳仙花）証言：植民地体験』札幌郷土を掘る会、1997年〔開架：221.06/PON〕
- ⑧高崎宗司『朝鮮の土となった日本人』草風館（増補新版）1998年〔開架：751.1/TAK〕

①は、日韓条約が国会で強行採決されたおりの国民文化会議シンポジウムの記録であるが、韓日関

係や在日韓国朝鮮人についてきわめて深い考察がなされており、今日でも熟読に値する。韓国朝鮮人問題はじつは日本人問題であることがよくわかる。②は、1968年に在日の「殺人犯」が静岡県寸又峽に立てこもった金嬉老事件の当事者による手記である。金嬉老は言葉によってではなく暴力的行動でものを訴えた人なので、この本を無条件にあがめるのは考えものだが、金嬉老が事件を起こすにいたった社会的状況を私たちは忘れ去ってはならない。なにしろこの状況は今日でも根本的に改善されたわけではないのだから。③は在日の理論家による韓日関係を基盤とした日本社会論。尹健次氏はその後も多数の著作を公刊しており、やや書きすぎのきらいもあるが、この本は氏の代表作といえるだろう。④は日本の言論人や政治家たちの韓国朝鮮に対する発言をたどったもので、同じ高崎氏の『反日感情』（講談社現代新書）とともに、日本人が心得ておくべき韓日の政治的関係が記録されている。日本の政治家や大臣の発言は、外国では、日本を代表した発言と受けとめられかねず、私も韓国で「日本人はなぜああいうことをいうのか」と問いつめられたことが何度かある。私たち日本人の歴史認識の貧困はいまに始まったことではないが、⑤はその点をついたものである。⑥もほぼ同じ趣旨で、韓日の歴史を古代から現代まで6人の論者が描いている。歴史はまた足もとにも刻まれている。⑦はわが北海道ゆかりの人々の証言集である。このような負の歴史のなか、日帝時代に⑧に描かれたような日本人がいたことは、ちょっとした救いであり、胸を打つ。

最後におまけとして

- ⑨水野邦彦『韓国社会意識粗描』花伝社、2002年
- 左の写真は、この本の原稿を書いているときに世話になった方の還暦祝いに同席させていただいたおりのものである。

（みずの くにひこ／経済学部教授）



第36回図書展示会

日本小説史展

～明治・大正・昭和の小説～

日時：平成14年3月1日～5月30日

場所：北海学園大学附属図書館1階自由閲覧室

〈展示資料〉

- ・安愚楽鍋 仮名垣 魯文 誠之堂版 明5
 - ・八十日間世界一周 前・後編 シュル・ウェルス著、川島 忠之助訳 丸屋善七店版 明11
 - ・牡丹燈籠 三遊亭 圓朝 東京裨史出版社版 明17
 - ・小説神髓 坪内 逍遥 松月堂版 明治18 名著復刻全集 近代文学館 昭43/12 910.8/Me25
 - ・当世書生氣質 坪内 逍遥 晩青堂版 明18
 - ・かくれんぼ 斎藤 緑雨 春陽堂版 明24
 - ・即興詩人 上・下 アンデルセン著 森 林太郎(鷗外)訳 春陽堂版 明35
 - ・我輩は猫である 上・中・下編 3冊 大倉書店/服部書店版 夏目 漱石 明39-40
 - ・夏目 漱石自筆原稿(復刻版) 永日小品・山鳥(25編の小品) (明42/1/14～2/14 朝日新聞連載)
 - ・こころ 夏目 漱石 岩波書店版 大3
 - ・鶏頭 高浜 虚子 春陽堂版 明41
 - ・お目出たき人 武者小路実篤 洛陽堂版 明44
 - ・志賀 直哉自筆原稿(復刻版) 老人 (明44/11 「白樺」に発表)
 - ・夜の光 志賀 直哉 新潮社版 大7
 - ・腕くらべ 永井 荷風 十里香館版 大6
 - ・生れ出る悩み 有島武郎著作集第6輯 大7
 - ・籐十郎の恋 菊地 寛 新潮社版 大9
 - ・赤い蠟燭と人魚 小川 未明 天祐社版 大10
 - ・海神丸其他 野上 彌生子 改造社版 大13
 - ・伊豆の踊子 川端 康成 金星堂版 昭2
 - ・雪国 川端 康成 創元社版 昭12
 - ・島崎 藤村自筆原稿(復刻版) 夜明け前 (昭4/4～10/10 「中央公論」に連載)
 - ・蟹工船 小林 多喜二 戦旗社版 昭4
 - ・春琴抄 谷崎 潤一郎 創元社版 昭8
 - ・蓼食ふ蟲 谷崎 潤一郎 創元社版 昭11
 - ・晩年 太宰 治 砂小屋書房版 昭11
 - ・如何なる星の下に 高見 順 新潮社版 昭15
- 名著復刻全集 近代文学館 昭43/9～44/9 (NDC:910.8/Me25) より

「ボケ老人、宮下じいさん絶好調!!」

奥村美香著

講談社

西暦 2025 年になると、日本の 65 歳以上の高齢者の割合は 4 人に 1 人になると推測されているそうです。介護福祉の問題は物心両方の面で大きな問題です。

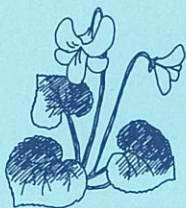
この本は、著者が 1983 年より付添婦として老人病院の、おもに痴呆症患者の介護に専念し、そのとき出会った宮下じいさんとの介護の日々を一冊にまとめたものです。肩書きがあっても、有名人でも、お金持ちでも、貧しくても人間誰でもいずれ老人になります。かなう事なら、迷惑をかけることなく死ぬまで元気でいたいものです。しかしボケは知らず知らず忍び寄ってきます。この本に書かれている痴呆症患者の実態は、私の想像をはるかに越えていました。仕事とはいえ身内でもない付添婦さんの、親身なお世話にはほんとうに頭が下がります。読んでいるうちに、私まで宮下じいさんに振り回され泣いたり笑ったり、付添婦さんに同情して怒ったりほっとしたり……

著者のような付添婦さんに出会えた宮下じいさんは、幸せだったなあと思います。

現在は付添婦制度は廃止され、介護ヘルパー制度が導入されています。

どんな制度であれ、痴呆症患者にも、その家族にも心安らかな日々が訪れることを願わずにはいられません。他人ごとではありません。誰でもいずれ老人になるのですから。

(M.T.)



新入生の皆さんへ!!

■ライブラリー・カードの手続きを

ライブラリー・カードは本を借りるときに必要です。カウンターでお申し込みください。カードの交付を受ける際は、「ライブラリー・カード申込書」に記入し、「学生証」とあわせて提示ください。カードは、在学期間中有効です。他人に貸与または譲渡することは出来ません。紛失したときは速やかに届け出て、再発行の申請を行ってください。(再発行の際は、有料となります)



図書館の動静

- ★平成 13 年 12 月 31 日 退職
川崎 実 (工学部図書室)
- ★平成 14 年 3 月 31 日 退職
高野信宏 事務部長 (定年)
- ★平成 14 年 3 月 31 日 学内異動
尾関京子 (就職部へ異動)

- ★平成 14 年 4 月 1 日 任命
小林真之 館長
- ★平成 14 年 4 月 1 日 学内異動
近松左武郎 事務部長
田鎖英晴 事務長
西村 元 係長 (情報管理係)
- ★平成 14 年 4 月 1 日 採用
畠田康平 (カウンター・サービス係)

「新しい時代への提言」

李 英 愛

およそ 550 年の歴史を持っている韓国語は、日本語の源流をたどる際に看過できない言語ともいわれている。今年の札幌の雪祭りには、韓国の光化門とともに、韓国語の創始者世宗大王の雪像が作られた。韓国の一萬ウォン札を飾っている世宗大王は、最も偉大な存在として尊敬されており、世宗大王の名前は「世宗文化会館」「世宗路」「世宗大学」「世宗ホテル」などのように、韓国社会ではさまざまな分野で用いられている。

【外来語】は「外国の言語から取り入れて国語となったことば」であり、日本では、一般的に中世末以後の、主としてヨーロッパ系の語をいうが、最近はキムチ（召叱）、プルコギ（불고기）、チゲ（찌개）、ナムル（나물）、コチュジャン（고추장）などの言葉が、新しい外来語として入っ

てきている。韓国では日本の植民地期に、日本語が国語として強制的に教えられたこともあって、年長者を含めて日本語が話せる人が多い。韓国人の日本語学習者の数に比べて、韓国語が話せる日本人は数少ないが、韓国の食文化の影響で、韓国語の国際化は日本から始まっているように思われる。

2002年5月31日に幕をあげる日韓共同開催のワールドカップを境に、19世紀のヨーロッパの時代と、経済力を中心とした20世紀のアメリカの時代に続く、21世紀のアジアの時代の到来を期待してみる。

(い よん え / 大学院文学研究科日本文化専攻
博士(後期)課程)

編 / 集 / 後 / 記

※新入学生の皆さんご入学おめでとうございます。

図書館は「知の宝庫」です。勉強に関する図書ばかりでなく、趣味や就職に関する情報など、利用の仕方によっては無限のフィールドに広がります。

在学中に図書館を上手に利用し、多くの「知」を学んで下さい。

※『ライブラリーカード』を発行しています。

図書を借りる時に必要です。図書館のカウンターにて発行していますので、学生証持参の上、手続きをして下さい。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.23 No.4 (通巻160号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161 本館内線 270・275・279・129 工学部内線 813・814 印刷所: 翰アイワード